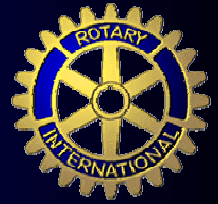


会 報

つくば学園ロータリークラブ



3月17日移動例会

20周年記念式典「反省会」会場：山水亭

20周年記念式典の反省会を山水亭にて行いました。





出席率

会員数	出席数	欠席数	内無届欠席数	出席免除	出席率
60名	38名	21名	3名	1名	64.41%

私の図書館

「チームバチスタの栄光」

塚原 英夫会員

「チームバチスタの栄光」 海堂 尊 著

感想 塚原 英夫

東城大学医学部付属病院は、米国の心臓専門病院から心臓移植の権威、桐生恭一を臓器統御外科助教授として招聘した。彼が構築した外科チームは、心臓移植の代替手術であるバチスタ手術の専門の、通称”チームバチスタ”として、成功率100%を誇り、その勇名を轟かせている。ところが、3例立て続けに術中死が発生。原因不明の術中死と、メディアの注目を集める手術が重なる事態に危機感を抱いた病院長・高階は、神経内科教室の万年講師で、不定愁訴外来責任者・田口公平に内部調査を依頼しようと動いていた。医療過誤か、殺人か。遺体は何を語るのか……。栄光のチーム・バチスタの裏側に隠されたもう一つの顔とは……。

「第4回『このミステリーがすごい！（通称「このミス」）』大賞」大賞を受賞したこの作品。作者は現役の医師。これが初の作品とは思えないぐらい完成度の高い作品になっている。実際の現場で働いているだけあって、作中の雰囲気にはかなりの現実味がおびている。物語の探偵役・まさにホームズとワトソンなる役割を担うのが医師の田口と厚生労働省からやってきた白鳥。この二人の絶妙なコンビネーションで物語は解決に向かい展開していく。二人を中心とした見事なテンポ感で、専門用語が多く出る文も気になることなくずっと物語の中に引き込まれることが出来る。現代医療が抱える問題点をも指摘しており医師の視点から書かれた最上級のエンターテイメント小説であろう作品である。

この面白さは、老若男女、自分で読んでみることで初めて納得するでしょう。世間で今もっとも話題となっているこの本を、ぜひ自分の目で実感してほしいものです。

現在までのリレー状況

中村義雄会員「国家の品格」(Vol.25)

→ 上野修会員「『いき』の構造」(Vol.26)

→ 大野治夫会員「県庁の星」(Vol.28)

→ 古本捷治会員「日本をダメにした売国奴は誰だ？」(Vol.30)

→ 塚原英夫会員「チームバチスタの栄光」(Vol.31)

プログラム 予告

- 3月23日(木) 会員卓話「つくば学園ロータリー基金について」
委員長 岡添 紘樹会員
- 3月30日(木) 新入会員卓話「現在の医療提供体制について」
五十嵐 幸裕会員
- 4月 6日(木) (夜の移動例会)「観桜会」 会場：グランド東雲
PM7:00～ (理事会 PM6:00～)
- 4月 9日(日)に変更(移動例会)地区大会 会場：下館総合体育館
AM7:30 大穂庁舎P集合・出発
AM8:30 登録開始
- 4月13日(木) 休会(4/9地区大会と振替)

■編集後記■

やはり、神はみていた。変なルール、(ピッチャーの交代)確信的な誤審をする審判。いろいろ問題の多かった国地域別対抗戦(WBC)、王日本の優勝で終えた。久しぶりに日の丸が大きくみえた。ありがとうイチロー。ついでに、ご苦労さん原田。(たまにはこんな一日もいいな。)

ゆうこう クラブ会報委員長 佐藤 裕光

未だ余韻が残っているWBC優勝。個人主義に思えたイチローの言葉やまなざしに、熱い人間らしさを感じた。寡黙に見える王監督が、かくも感情の多くあふれたコメントをするのに驚き、より身近に感じた。勝っても決して傲らず、敗者に敬意を表する、日本チームには品格を感じた。韓国戦で身につけた「勝ちたい執念」が実を結んだ結果と思う。トリノオリンピックの無念さがすっかりと晴れたWBC、しばらくは感動の余韻に浸っていたい。

クラブ会報委員 齊藤 修一

例会日 木曜日 12:30~13:30

例会場 「オークラフロンティアつくば」つくば市吾妻1丁目1364-1

ホームページもご覧下さい
<http://www.46gama.com/>

つくば学園ロータリークラブ

〒305-0047

茨城県つくば市千現2丁目1番6 つくば研究支援センターA28

電話 029-858-0100

FAX 029-858-0101

Email:gakuenrc@axel.ocn.ne.jp



超我の奉仕